

東日本大震災被災地(宮城県) 派遣における報告

海上自衛隊 徳島航空衛生隊
防衛技官 森 寛

この発表内容は、鳴門生徒指導学会に帰属するものである。

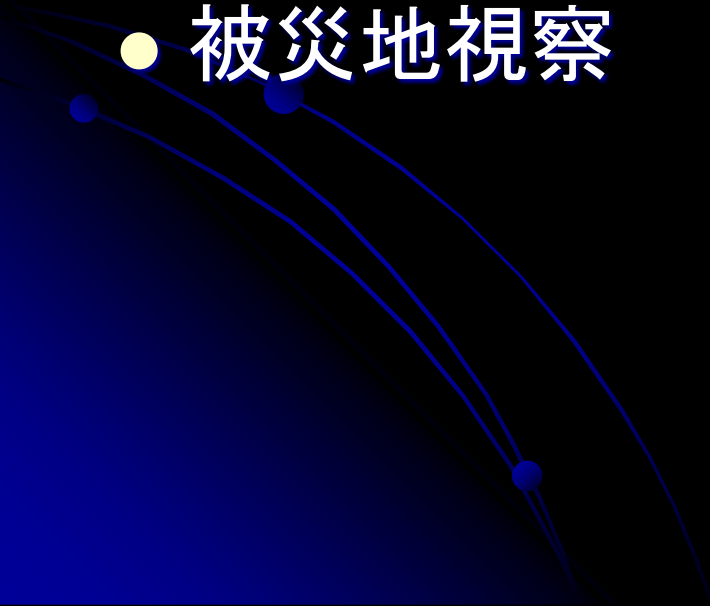
目的

- 東日本大震災における精神保健活動の支援を目的としている。
- 厚生労働省からの依頼により、23年4月25日～6月30日までの間、海上自衛隊に所属する臨床心理士8名が交代で、宮城県でのメンタルヘルスケアに関する任務に就いた。

活動場所・派遣期間

- 宮城県精神保健福祉センターは宮城県大崎市古川にある。
- 周辺の古い家屋は被害を受け、歩道は液状化現象により凸凹になっていたが、ほぼ日常生活を取り戻しつつあった。
- 平成23年5月6日(金)から5月16日(月)までの11日間、支援活動を行った。

活動内容

- 相談活動
 - センター職員支援
 - 被災地視察
- 

相談活動

- 震災後、宮城県精神保健福祉センターにおいてホットライン専用電話による「こころの健康相談電話」が毎日、早朝、昼間、夜間に開設された。設置された2台のうちの1台を筆者が担当した。
- 来所によるインテーク面接も2件対応した。面接後、Drなどを交えてケース検討を行い、今後の対応について討議した。

日付	電話相談(内震災関係)	備考
5月6日(金)	8件(1件)	午前中、前任者と引継ぎ
5月7日(土)	6件(4件)	
5月8日(日)	5件(1件)	
5月9日(月)	18件(2件)	インテーク面接1件
5月10日(火)	17件(2件)	
5月11日(水)	4件(3件)	午前中、石巻視察 インテーク面接1件
5月12日(木)	17件(7件)	
5月13日(金)	12件(7件)	
5月14日(土)	休養日	
5月15日(日)	4件(2件)	
5月16日(月)	5件(3件)	後任者と引継ぎ、午前のみ勤務
計	96件(32件)	

相談内容

- 相談内容については、ホームページへの掲載を控えさせていただきます。

センター職員支援

本来、臨床心理士は3名配置であるが、震災後の混乱で1名配置のままとなっている。



臨床心理士が業務過多に陥る。



我々が入ることにより...

- ・通常業務に専念
- ・交代で休みが取れるようになる
- ・職員のメンタルヘルスケア

○我々がいること自体がセンター職員支援になっていると感じた。

被災地視察

- 宮城県沿岸部の石巻市の被害状況を視察。
辺りには海の腐ったような臭いが立ち込めており、
今までに感じたことのない衝撃を受けた。
- 現地の状況
 - ・住宅地だった辺りには瓦礫しかない
 - ・津波の後、火災にあった学校の校舎
 - ・押しつぶされ原型をとどめない自動車
 - ・陸に乗り上げている大型船など、
想像を絶する状況であった。

支援者への支援の重要性

支援者自身のメンタルヘルスを維持できる構造を早急に構築すること。

- ・支援者同士のグループミーティング
- ・ケースカンファ、スーパーバイズを受けられる体制



支援者自身がお互いを支えあい、分かち合う中で支援活動の振り返りができる構造を作っていくことが有効である。

話を「聴いてもらう」ことの大切さ

想像を絶する壮絶な話に、筆者は、無力さを感じると共にそれらの話に耳を傾けることしか出来なかった。しばらく話を聴くことで、「少し落ち着きました」「頭の整理が出来ました」という声に、ほんのわずかな時間でも話を「聴いてもらう」ことの大切さを改めて感じた。

「ボチボチいきましょう」

